

勝利を得る者の教会—5

「キリストが送られた7つの教会への手紙から学ぶ」

「実は死んでいるサルデイスの教会」 黙示録3：1～6

今まで4つの教会から学んできました。

①エペソの教会は賜物が豊かで、熱心な教会でしたが、根本が病んでいました。「初めの愛から離れてしまいました」悔い改めて、初めの愛に立ち返るように勧められました。

②スミルナの教会は厳しい迫害を受けた教会でした。その中で「死に至るまで忠実にあり続けた」故に称賛されました。AD316年までの迫害時代の教会です。

③ペルガモンの教会は迫害が止み保護された時代の教会でローマ時代の権力的、統治する者と支配される者という二重構造が教会に入り、結局妥協して霊的な力を失った教会です。

316年から500年に至る時代の教会です。

④テアテイラの教会はローマカトリック教会の時代で妥協から墮落、儀式、形式化して偶像礼拝に陥った教会です。神はこのような中にも「残りの者たち」(レムナント)を認めて祝福し最後までしっかり守る者に報いてくださいます。

⑤サルデイスの教会は1517年以降の宗教改革の教会です。ルターの聖書のみ、信仰のみ、恵みのみ三原則に立った教会でしたが、結局見せかけの、名ばかりで、実は死んでいる教会となりました。

1 いのちのない教会

サルデイスの教会には、偽預言者、偽教師、偽信者もいませんでした。悪魔も攻撃しませんでした。何故ならこの教会は死んでいたからです。会堂は立派で、会衆も多く、行事も華やかでした。しかし「いのちがなかった」のです。しかもその自覚がなかったのです。いのちの御霊の原則に歩いていなかったのです。明確なキリスト体験、聖霊体験がなかったのです。頭脳的、知識的、体裁的で満足していたのです。(1サムエル16：7、マタイ23：27, 28)

2 実のない葉ばかりの教会

宗教改革では、万人祭司を訴えていましたが実際には実現しませんでした。理屈としては受け入れていましたが其の通り守りませんでした。特別な賜物を与えられている人に任せている状態です。教会と自分の日常生活を二分化しています。悔い改めの実、品性の実、救霊の実をむすんでいません。

3 わずかだが、衣を汚さなかった者たちへの称賛

① 衣を汚さなかった人たちの心構え 3：1～3

- ・苦境、逆境での訓練で鍛えられたクリスチャン
- ・いのちの御霊の原則に生きたクリスチャン
- ・いつも目覚めたクリスチャン

② 白い衣を着て、イエスと共に歩んだ生き方 3：4

- ・わずかばかりのひとたち（レムナントの自覚）
- ・信仰と日常生活の一致
- ・キリストと共に歩んだ人たち

③ 勝利したクリスチャンへの三重の約束 3：5～6

- ・白い衣を着せられる（無罪の宣告）
- ・いのちの書に名が記され、決して消されることはない
- ・やがて神の前で、その名が呼ばれる